

機械移植 TPM工法

・TPM工法は、樹木を大型移植機を使用して、連続的に移植する工法であり、従来の工法に比べ、格段の対応能力を持っている。

・樹木の形姿を保全するので、移植後すぐに完成した景観を形成できる。さらに移植にあたって季節を選ばない、短期間で移植できるなどさまざまな利点がある。

■TPM法が貢献できる分野

- ・完成度の高いゴルフコースの景観形成。
- ・魅力的なスキーエリアの景観構成。
- ・自由な造形上につくる森林浴空間の実現。
- ・大きな緑陰能力を持った街道の並木道の保全と形成。
- ・自然公園周辺での開発と景観の緩衝。
- ・森の生物まると移動による林間環境の保存。
- ・ビオトープへのバックアップ。



幹周2.2mのアオダモの移植状況



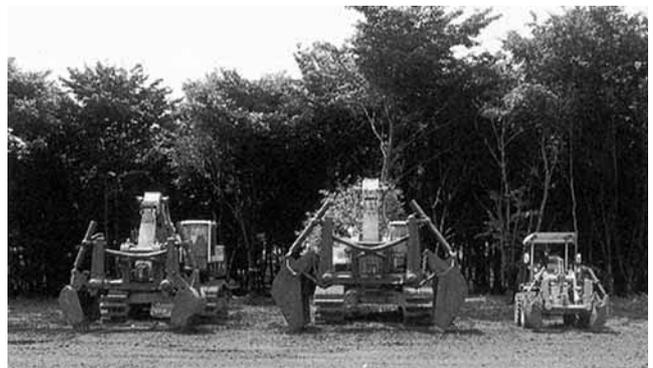
平成6年9月、移植直後の状況

■特長

1. 幹周3.0mまでの樹木に対応する。
2. 最大2割までの急勾配に対応する。
3. 移植に際して樹形を損なわない。
4. 夏季等従来不適期とされた時期の移植にも対応する。
5. 工期を大幅に短縮することができる。
6. 規格が大きくなるほど、圧倒的な経済性を発揮する。
7. 樹木周辺の環境のまると移動に対応する。

■近年の主な実績

- 平成13年 相模原市青山学院新築に伴う移植
- 平成13年 第二東名刈谷PAに伴う移植
- 平成13年 多摩川スーパー堤防築造に伴う移植
- 平成14年 愛知万博会場造成に伴う移植
- 平成15年 金沢大学角間団地仮植木定植
- 平成16年 外環市川市小塚山地区移植



移植後のラインナップ。左からT-2型、T-3型、T-1型

■移植機の仕様（対応目通幹周）

幹周	機種	T-1型	T-2型	T-3型
~60cm		○		
60cm~120cm			○	
120cm~300cm				○

○TPM工法採用の有利性の根拠

- ・TPM工法では在来工法に比べて数倍の根鉢容量を確保する。これにより、掘取、植付に際して根鉢を崩さないため、貴重な根系をより多く確保することができる。（左図）
- ・掘取から根付までの時間が短く、根鉢（根系）の乾燥を最小限に押さえる。
- ・移植前の準備や植付時の対応、移植後の対応についても、豊富な造園技術、生理学的知識を駆使している。
- ・数々の実績の積み重ねによる豊富なノウハウを持つ。
- ・調査から設計、積算、施工まで、どんなニーズにも対応できる柔軟性を持っている。

